

鳴上遺跡群 26

上  
森

2002

高槻市教育委員会

# 嶋上遺跡群 26

## はしがき

本市の文化財を総合的に取り扱う部門として平成12年に発足しました文化財課も2年目を迎えました。同時に文化財保護法の改正・施行からも2年目となる平成13年度は、市内各所で重要な調査をおこなうなど、文化財行政を進めるうえでもさらに前進した一年となりました。

島上郡衙跡では近年の傾向と同様に、遺跡外縁部分の個人住宅建設等の開発にともなう調査が主流となっております。これらの調査で得られた成果は、郡衙成立以前の状況や郡衙周辺部をも含めた空間的な状況の把握についての基礎資料となります。

高櫻城跡ではそれぞれが小規模な調査ながらも、各郭をとりかこむ堀の位置が確認されるなど、近世高櫻城の縄張りをより正確に復元するための手掛けりが引き続き蓄積されております。また、三ノ丸跡で検出した地下室遺構は、高櫻城では初例となるもので、城内での暮らしぶりをうかがい知るうえでも貴重な資料を得たと言えます。

史跡今城塚古墳におきましては、第5次規模確認調査を実施するとともに、内堤部において埴輪祭祀区をはじめて確認し、大規模古墳における埴輪祭祀にかかる重要な知見をあらたに得ることができました。今回の調査は、全体の約30%の範囲であるところから、その全体像を解明するうえでも次年度の調査にむけて取り組んでいきたいと思っております。

最後に、本書をまとめるにあたり、ご教示やご協力いただいた関係機関をはじめ、多くの方々に心から感謝申し上げます。

平成14年3月31日

高槻市教育委員会 文化財課  
課長 富成哲也

## 例　　言

1. 本書は、高槻市教育委員会が平成13年度国庫補助事業として計画、実施した高槻市所在の史跡・鳴上郡街跡附寺跡周辺部及び市内遺跡の発掘調査事業（総額4,000,000円）の概要報告書である。
2. 事業は、高槻市教育委員会の直営事業として実施し、大阪府教育委員会の助力を得て、平成13年5月8日着手、平成14年3月31日に終了した。
3. 調査は、高槻市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センターがおこなった。本書の執筆・図面作成・製図は、橋本久和、鐘ヶ江一朗、宮崎康雄、高橋公一、木曾 広、西村忠祥がおこない、分担は文末に記した。遺構・遺物の写真撮影は清水良真が担当した。遺物整理については以下の各氏から援助をうけた。厚く感謝する。  
荒井純子・池田理美・井上明子・白銀良子・高橋美喜子・母靖代・二反長恵子・堀亞紀・西岡和江・松下智子

(順不同・敬称略)

4. 調査の実施にあたり、以下に掲げる土地所有者の方々をはじめ、関係機関各位のご協力をいただいた。ここに記して感謝いたします。  
北川泉・木下明浩・久保田明良・松岡建設㈱・奥山進・奥山仁美・岡崎勝正・多田敬二・寺川富雄  
上中清隆・小泉正行・林政義・中川清・坂本俊夫・法橋かね子・樽谷好次・萩重彦・萩重和  
池長潤・青木淳・

(順不同・敬称略)

## 目 次

I 鳥上郡衙跡	1
II 中城遺跡	6
III 郡家今城遺跡	7
IV 富田遺跡	8
V 田能南遺跡	9
VI 宮之川原遺跡	10
VII 高槻城跡	13
VIII 今城塚古墳規模確認調査	20
IX まとめ	22

No.	遺跡名(地区)	調査地	面積(㎡)	申請者
1	鳥上郡衙跡(6-F-G)	郡家町755-1	187.40	久保田 明良
2	〃 (38-F)	清福寺町918-8	52.25	北川 泉
3	〃 (48-D)	川西町1丁目954-8	43.40	木下 明浩
4	〃 (48-N)	川西町1丁目957,967-1	290.40	奥山 道・奥山仁美
5	〃 (74-J-N)	郡家新町155 2	1262.80	松岡建設㈱
6	中城遺跡(2001-1)	北畠和台町2丁目313-4	228.27	岡崎勝正
7	郡家今城遺跡(2001-1)	水道町1丁目769-6	103.34	多田政一
8	富田遺跡(2001-1)	富田町6丁目2833の一部	94.42	寺川富雄
9	田能南遺跡(2001-1)	大字田能小字中条39-2	115.10	上中清隆
10	宮之川原遺跡(2001-1)	宮之川原5丁目512-2	68.66	小泉正行
11	〃 (2001-2)	宮之川原5丁目509-2	76.23	林政義
12	〃 (2001-3)	宮之川原5丁目505-56	90.40	中川清
13	高槻城跡(2001-1)	城内町1001-3	78.90	坂本俊夫
14	〃 (2001-2)	野見町1205	175.98	法橋かね子
15	〃 (2001-3)	野見町443-16	81.70	橋谷好次
16	〃 (2001-4)	八幡町1056他	1165.14	森重彦・森重和
17	〃 (2001-5)	野見町1500-1	2148.74	池長潤
18	〃 (2001-6)	野見町1234-4	69.83	青木淳一

平成13年度 市内遺跡調査一覧



## I. 島上郡衙跡

### 1. 島上郡衙跡（6-F・G地区）の調査

調査地は高槻市郡家本町755-1番地にあたり、小字は「東垣内」と称する。当該地は遺跡北辺部にあたり、式内阿久刀神社の西100mに位置している。神社周辺では弥生時代から奈良・平安時代におよぶ多くの遺構・遺物が検出されており、当該地まで及ぶことが想定された。

調査は重機で盛土等を除去した後、人力で掘削・精査し、遺構・遺物の検出を行った。層序は盛土(0.45 m)、耕作土(0.55 m)、暗褐色土(0.3 m)、黄灰褐色礫〔地山〕である。暗褐色土については色調・土質などから、周辺調査区で検出した遺物包含層と一連のものと考えられるが、調査区が狭小なため明確な遺構・遺物は検出されなかった。

今回の調査では当該地周辺にも遺構の分布がうかがえた。今後の周辺部の調査に期待したい。

(木曾)



図1 島上郡衙跡（6-F・G）調査位置図

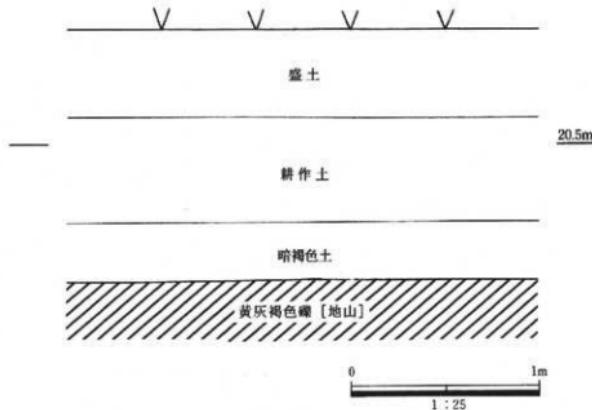


図2 島上郡衙跡（6-F・G）土層模式図

## 2. 鳴上郡衙跡（38-F 地区）の調査

調査地は清福寺町 918-8 番地にあたり、小字は「川西北浦」と称する。当該地は市域を南北に貫く芥川西岸の段丘上に位置し、周辺では古墳時代の堅穴住居跡や土器棺墓を検出している。

調査は、重機で盛土等を除去したのち、人力で掘削・精査作業を行った。

層序は盛土（1.0 m）、耕作土（0.2 m）、暗青灰色砂質土（0.25 m）、暗灰黄色粘土（0.2 m）、灰褐色砂（0.1 m）、暗黄褐色土〔地山〕である。地山は北から南へ向かって緩やかに下降していた。遺構・遺物は検出されず、一帯は芥川の氾濫源であったと考えられる。

（木曾）



図3 鳴上郡衙跡（38-F）調査位置図

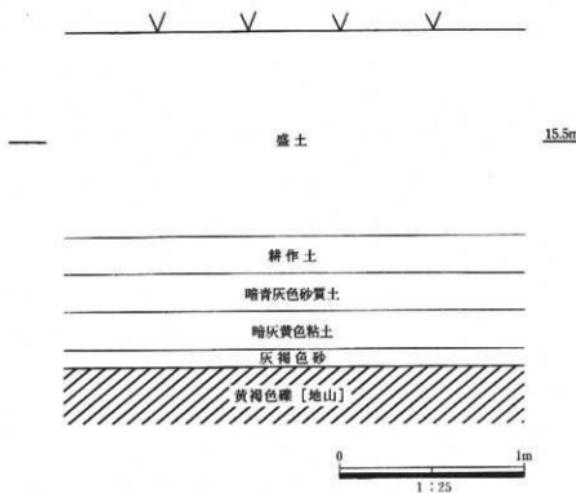


図4 鳴上郡衙跡（38-F）土層模式図

### 3. 鳴上郡衙跡（48-D 地区）の調査

調査地は高槻市川西町一丁目 954-8 番地にあたり、小字は「川西北浦」と称する。現状は宅地である。このたび、個人住宅の建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は川西小学校東側の住宅地で、史跡指定地東部に隣接する。周辺部におけるこれまでの調査では弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居や方形周溝墓をはじめ、多くの遺構・遺物を検出している。

調査は重機で盛土等を除去したのち、人力で掘削・精査作業を行った。層序は盛土（1.0 m）、耕作土（0.2 m）、暗青灰色砂質土（0.2 m）、暗黄灰色粘土（0.25 m）、暗黄褐色土〔地山〕であった。明確な遺構・遺物は検出できなかった。



図5 鳴上郡衙跡（48-D）調査位置図

（木曾）

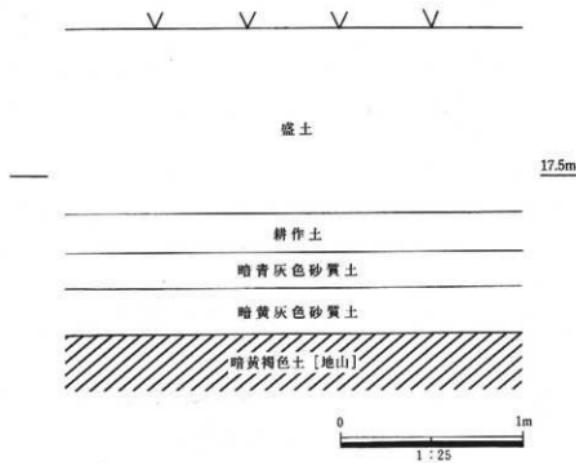


図6 鳴上郡衙跡（48-D）土層模式図

#### 4. 鳴上郡衙跡（48-N 地区）の調査

調査地は高槻市川西町一丁目 957、967-1

番地にあたり、小字は「川西北浦」である。

現状は宅地である。当該地は古代山陽道を踏襲した旧西国街道に面しており、周辺地区では道路跡等の遺構が確認されている。

調査は個人住宅建設に先立って実施したもので、まず重機で盛土等を除去したのち、人力で掘削・精査をおこなった。基本的な層序は盛土・整地土(0.7 m)、青灰色土(0.1 m)、暗褐色粘土(0.1 m)、淡黄灰色粘質土〔地山〕である。

遺構・遺物は検出されなかった。

(宮崎)



図7 鳴上郡衙跡（48-N）調査位置図

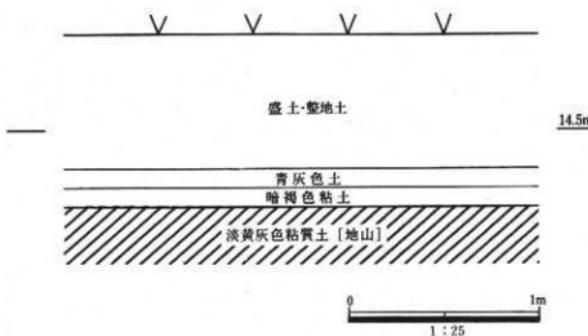


図8 鳴上郡衙跡（48-N）土層模式図

## 5. 鳥上郡街跡（74-J・N 地区）の調査

調査地は、高槻市郡家新町155-2番地にあたり、小字は「東藤ヶ本」と称する。現状は宅地である。このたび、分譲住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は鳥上郡街跡の西部に所在し、山陽道の北側を通過する。また、一本木古墳が当該地南東部付近に所在したとされていたが、これまで実施された周辺部の調査では、遺構・遺物の検出は比較的少ないので現状である。

届出地の南北方向に3調査区を設定し、重機で盛土等を除去した後、人力による掘削及び精査をおこなった。いずれの調査区とも、基本層序は盛土（0.7m）、耕作土（0.2m）、青緑色砂質土〔地山〕である。遺物包含層は確認されず、遺構らしきものもまったく検出されなかった。

(橋本)



図9 鳥上郡街跡（74-J・N）調査位置図

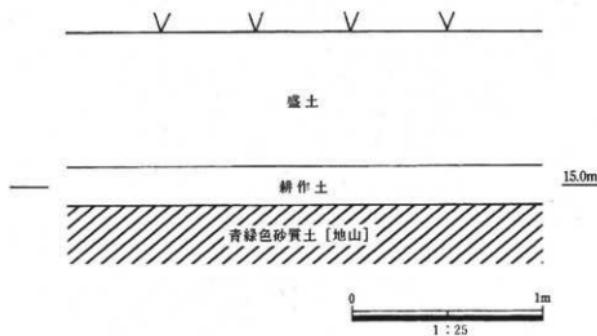


図10 鳥上郡街跡（74-J・N）土層模式図

## II. 中城遺跡

### 6. 中城遺跡（2001-1 地区）の調査

調査地は、高槻市昭和台町二丁目 313-4 番地にあたり、小字は「射場之前」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は富田台地上に位置する中城遺跡の北部にあたり、これまでの周辺部の調査では平成 7 年度に中世の埋蔵銭が多量に出土している。

調査区を届出地中央部に設定し、重機で盛土を除去した後、人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土（0.6 m）、耕作土（0.2 m）、床土（0.1 m）、暗褐色土（0.3 m）、淡黄灰色土〔地山〕である。暗褐色土には東播系須恵器の細片がわずかに混入していたが、遺構について検出することができなかった。

さきに出土した埋蔵銭の塊は、今回の調査で確認した暗褐色土を掘り込むようにして出土している。東播系須恵器の細片を頼りにするのは大胆であるが、埋蔵銭の年代を南北朝期として大過ないとかんがえる。

(橋本)



図11 中城遺跡（2001-1）調査位置図

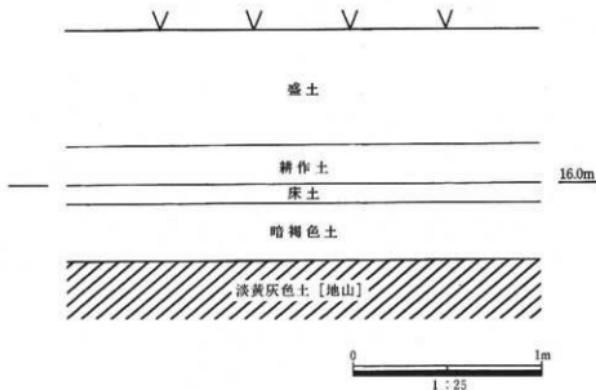


図12 中城遺跡（2001-1）土層模式図

### III. 郡家今城遺跡

#### 7. 郡家今城遺跡（2001-1地区）の調査

調査地は高槻市氷室町一丁目769-6番地にあたり、小字は「下川原」である。現状は宅地である。

今回の調査は個人住宅建設に先立つもので、近隣調査区では旧石器時代及び奈良・平安時代の遺構・遺物等を検出している。

調査は、重機で盛土を除去した後、人力で掘削・精査及び層序の観察をおこない、遺構・遺物の検出に努めた。層序は盛土（0.8m）、耕作土（0.2m）、暗黄褐色疊〔地山〕であった。

今回の調査では遺構・遺物を検出しなかった。



図13 郡家今城遺跡（2001-1）調査位置図

(木曾)

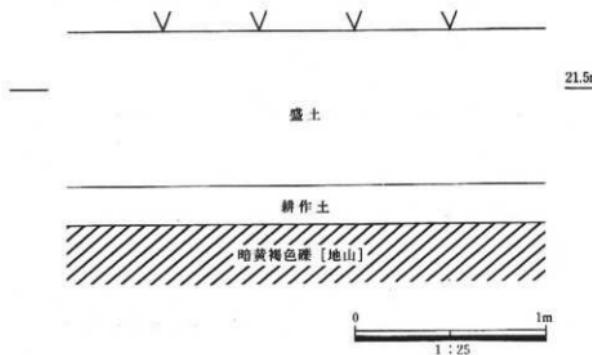


図14 郡家今城遺跡（2001-1）土層模式図

## IV. 富田遺跡

### 8. 富田遺跡（2001-1 地区）の調査

調査地は、高槻市富田町六丁目 2833 番地にあたり、小字は「西ノ口」と称する。現状は宅地である。今回、個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。

調査は、重機により盛土等を除去した後、人力で掘り下げて遺構・遺物の検出に努めた。盛土(0.4 ~ 0.5 m)を除去するとすぐに黄褐色疊土〔地山〕となる。遺構・遺物は確認できなかつた。調査地は富田台地上に立地することから、はやくに削平を受けたものとかんがえられる。

(木曾)



図15 富田遺跡（2001-1）調査位置図

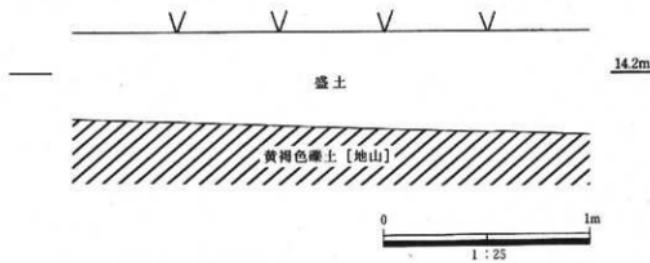


図16 富田遺跡（2001-1）土層模式図

## V. 田能南遺跡

### 9. 田能南遺跡（2001-1 地区）の調査

高槻市北部に位置する田能地区は、北摂山地の標高 350 m 前後をはかる狭い盆地にあたる。一帯は摂津と丹波を結ぶ交通の要所にあたり、鎌倉時代前期の建立とされる櫻船神社が鎮座することから、該期にはすでに開けていたと推定されている。

今回の調査地は、高槻市大字田能小字中条39-2番地にあたり、小字は「仲条」と称する。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。調査は、重機で盛土等を除去したのち、人力で掘削および精査作業を行い遺構・遺物の検出に努めた。当該地ははやくに削平・造成がなされており、層序は盛土（0.3 m）、暗赤褐色礫〔地山〕であった。遺構・遺物は検出しなかつた。

（木曾）



図17 田能南遺跡（2001-1）調査位置図

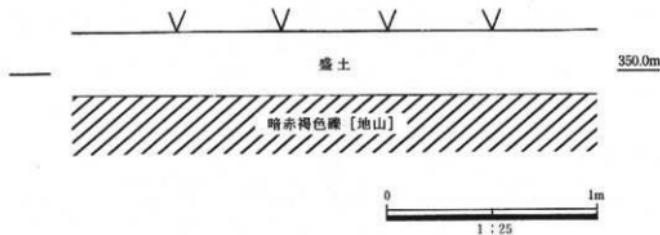


図18 田能南遺跡（2001-1）土層模式図

## VII. 宮之川原遺跡

### 10. 宮之川原遺跡（2001-1 地区）の調査

調査地は高槻市宮之川原五丁目 512-2 番地にあたり、小字は「大明神」と称する。現状は宅地である。このたび、個人住宅の建設が計画されたため事前に発掘調査を実施した。

当該地は宮之川原遺跡の東南部に位置する。これまでおこなわれた周辺部の調査では、弥生時代後期の竪穴住居跡等が検出されており、これらに關わる遺構が調査地まで及ぶことが予測された。

調査は、重機で盛土・旧耕作土を除去した後に人力による掘削・精査作業をおこなった。

層序は盛土（0.1 m）、旧耕作土（0.1 m）、暗黄灰褐色土（0.1 m）、暗灰褐色砂質土（0.2 m）、暗黃褐色礫〔地山〕であった。今回の調査では遺構・遺物は検出されなかった。

(木曾)



図19 宮之川原遺跡（2001-1）調査位置図

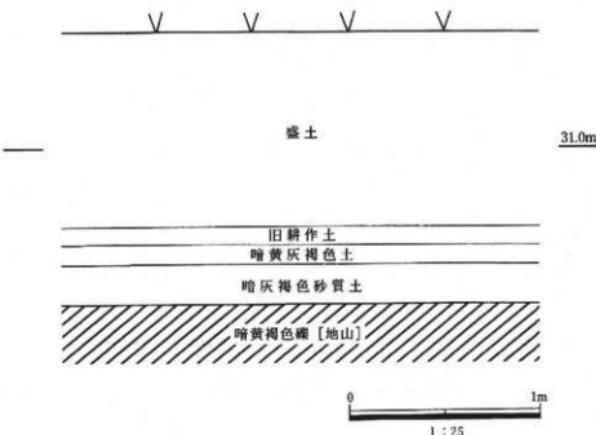


図20 宮之川原遺跡（2001-1）土層模式図

## 11. 宮之川原遺跡（2001-2 地区）の調査

調査地は高槻市宮之川原五丁目 509-2 番地にあたり、小字は「大明神」である。現状は宅地である。今回の調査は個人住宅の建設に先立つものである。

調査は、重機で盛土等を除去した後、人力による掘削・精査作業をおこない、遺構・遺物の検出につとめた。層序は盛土（0.4 m）、旧耕作土（0.2 m）、暗灰褐色砂質土（0.1 m）、黄灰褐色粘質土（0.2 m）、暗褐色土（遺物包含層：0.6 m）、暗黃褐色礫〔地山〕であった。遺構・遺物はほとんど検出されなかった。

今回の調査では明確な遺構・遺物を確認することはできなかったものの、比較的厚い遺物包含層が存在する。わずかに含まれる微細な遺物片の風化が著しく、砂礫も混入するという検出状況からすれば、流出した包含層が再堆積したものであろう。

（木曾）



図21 宮之川原遺跡（2001-2）調査位置図

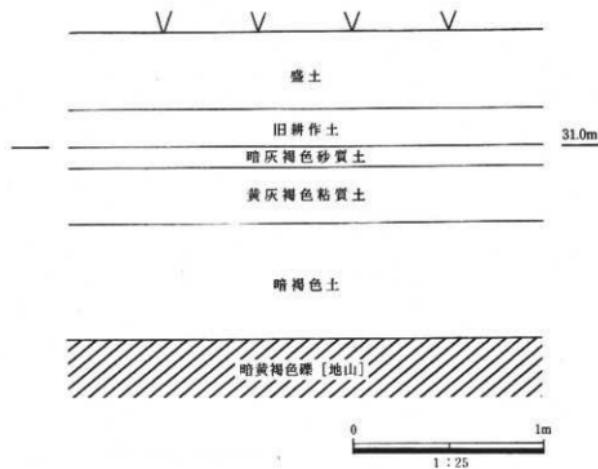


図22 宮之川原遺跡（2001-2）土層模式図

## 12. 宮之川原遺跡（2001-3 地区）の調査

調査地は高槻市宮之川原五丁目 505-56 番地にあたり、小字は「大明神」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は宮之川原遺跡の東南部に位置する。

調査区を届出地内に設定し、重機で盛土、旧耕作土を除去した後に人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土（1.25 m）、旧耕作土・床土（0.2 m）、暗青褐色砂礫（遺物包含層：0.4 m）、暗褐色礫土（0.3 m）、淡青灰色粘土〔地山〕である。

今回の調査では遺構を検出せず、遺物については包含層から 5~6 世紀代の土師器・須恵器の小片がわずかに出土している。いずれも摩耗が著しいことから、この遺物包含層は宮之川原遺跡一帯で検出される河川堆積層であると考えられる。



図23 宮之川原遺跡（2001-3）調査位置図

(高橋)



図24 宮之川原遺跡（2001-3）土層模式図

## VII. 高槻城跡

### 13. 高槻城跡（2001-1 地区）の調査

高槻市城内町1003-13番地にあたり、小字は「練兵場」と称する。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。

今回の調査地は、高槻城南側の外堀にあたるが、堀はすでに埋め立てられたうえ、さらに盛土がなされた造成地となっている。

調査は、重機によって盛土等を除去した後、人力によって掘り下げて遺構・遺物の検出につとめた。

層序は盛土（0.5 m）、耕作土（0.2 m）、床土

（0.2 m）、黒灰色粘土（0.5 m以上）である。黒灰色粘土層は堀の埋土とみられるものの、明確な遺構・遺物は検出できなかった。



図25 高槻城跡（2001-1）調査位置図

（木曾）

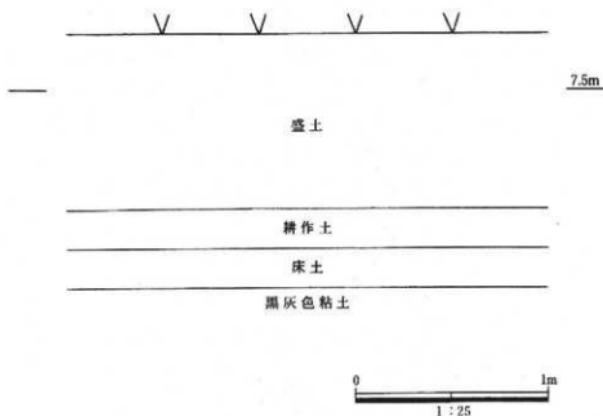


図26 高槻城跡（2001-1）土層模式図

#### 14. 高槻城跡（2001-2 地区）の調査

調査地は、高槻市野見町1205番地にあたり、小字は「二之丸」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は近世高槻城の出丸東北部の堀に相当する位置にある。

調査区を届出地中央部に設定し、重機で盛土を除去した後、人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は赤褐色砂質土（盛土：0.6m）、青灰色砂質シルト（整地土：0.4m）、暗灰色シルトである。青灰色砂質シルトは自然木などを含み、約1.5m以上の深さまで掘削したが変化はなく、堀の埋土であると解される。

今回の調査では、当該地が近世高槻城の堀にあたることを確認したものの、遺物は出土しなかった。

（橋本）



図27 高槻城跡（2001-2）調査位置図

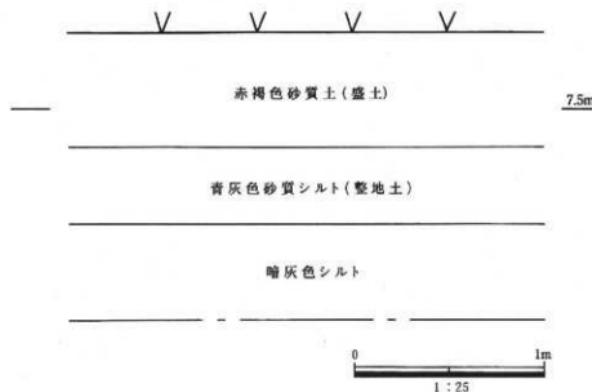


図28 高槻城跡（2001-2）土層模式図

## 15. 高槻城跡（2001-3 地区）の調査

調査地は、高槻市野見町 443-16 番地にあたり、小字は「不明ノ門」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は近世高槻城の二ノ丸西側の帯郭に相当する位置にある。

調査区を届出地中央部に設定し、重機で盛土を除去した。盛土はすべて青灰色の砕石で約 2 m を掘削したが、遺構・遺物は検出されず、湧水が激しいために調査を断念したために、遺構・遺物等の資料は得ることができなかった。

(橋本)



図29 高槻城跡（2001-3）調査位置図

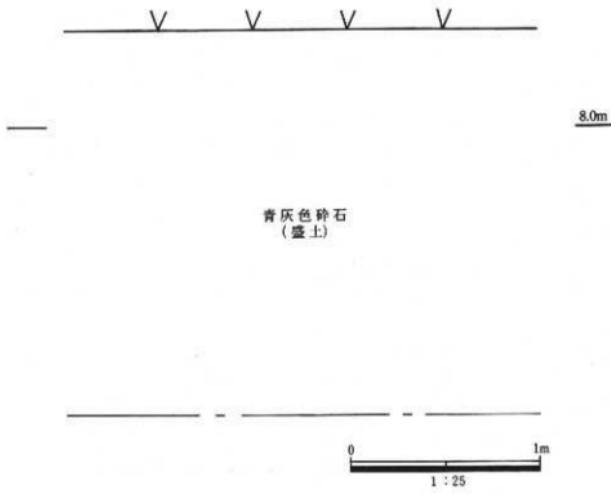


図30 高槻城跡（2001-3）土層模式図

## 16. 高槻城跡（2001-4 地区）の調査

調査地は、高槻市八幡町1056番地にあたり、小字は「桜之馬場」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は近世高槻城の東大手門東側の外堀に位置している。明治時代に外堀が埋め立てられた後に宅地化されたものである。

調査区を届出地中央部に設定し、調査をおこなった。層序は盛土(0.6m)、淡褐色土(0.2m)、黄灰色土(0.2m)、青暗灰色粘土である。青灰色粘土は外堀堆積土とみられ、厚く堆積していた。

遺構・遺物は出土しなかった。

(橋本)



図31 高槻城跡（2001-4）調査位置図

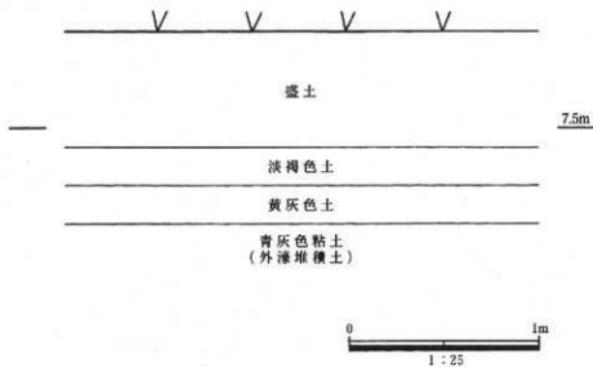


図32 高槻城跡（2001-4）土層模式図

## 17. 高槻城跡（2001－5 地区）の調査

高槻城は高槻市のほぼ中心部、城内町・出丸町・大手町にまたがる東西 510 m、南北 630 m の範囲にあり、中央の本丸・二ノ丸とこれを取り囲む内堀、外側には三ノ丸・厩郭・帶郭・出丸と外堀が巡る。往時の姿はとどめていないが、昭和 50(1975)年にはじめて本丸石垣の基礎部分が検出されて以来、三ノ丸・厩郭・外堀などの調査によって近世高槻城の状況が徐々に明らかにされてきたほか、平成 10(1998)年には高山右近時代のキリシタン墓地が発見され、中世高槻城の状況についての手がかりが得られている。

今回の調査地は高槻市野見町 1500-1 番地にあたり、小字は「剣場」である。高槻キリスト教会の司祭館建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は 17 世紀中頃の高槻城絵図では三ノ丸にあたる。周辺では中・近世の遺構・遺物が多数検出されており、本調査区でも同様の状況が期待された。

調査は、重機によって盛土等を除去し、人力で掘削・精査をおこなった。基本的層序は盛土(0.2 ~ 0.9 m)、暗黄灰色粘土(ブロック: 0.3 ~ 0.6 m)、暗黄灰褐色砂質粘土(0.1 ~ 0.3 m)、黄褐色土〔地山〕であり、地山面の標高は 8.5 m をはかる。

### 遺構・遺物

検出した遺構は、地下室遺構・溝・ピットである。地下室遺構は、調査区西端で検出した。東西 1.8 m × 南北 1.9 m の方形で深さ 0.3 m をはかる。木製枠形貯蔵穴というタイプで、江戸時代に多くの検出例がみられる。掘形の壁に接していた板を 2 段に組み合わせ、杭を内側に打ち込み、底に板を敷いたものである。埋土からは管等が出土した。

溝 1 は調査区東端で検出した。幅 3.6 m、深さ 0.5 m をはかる南北溝で両端は調査区外にのびる。断面の形状は U 字形である。

溝 2 は調査区中央部で検出した。幅 0.3 ~ 0.4 m、深さ 0.05 m の南北溝である。盛土直下から掘削されており、時期的に新しい。

ピットは直径 0.1 ~ 1.0 m、深さ 0.1 ~ 0.4 m の円形で調査区中央付近に散在していた。

遺物には須恵器・近世陶磁器・瓦など広い時代幅があるが遺構に伴うものはなかった。



図33 高槻城跡 (2001-5) 調査位置図

## 小 結

今回の調査では地下室遺構・溝・ピットなどを検出したものの、各遺構の相互の関係や具体的な状況は明らかでない。地下室遺構については京坂地域では検出例の少ないものであるが、食糧貯蔵用と察するのみで本來の用途は不明である。今後も検出される可能性が高く、屋敷地の復元に欠くことのできない遺構となろう。

(木造)

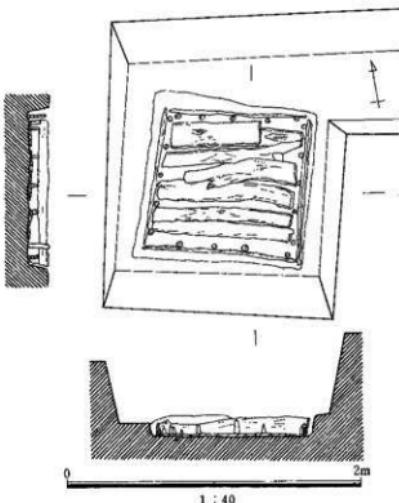


図35 高槻城跡（2001-5）地下室遺構 平面図・断面図

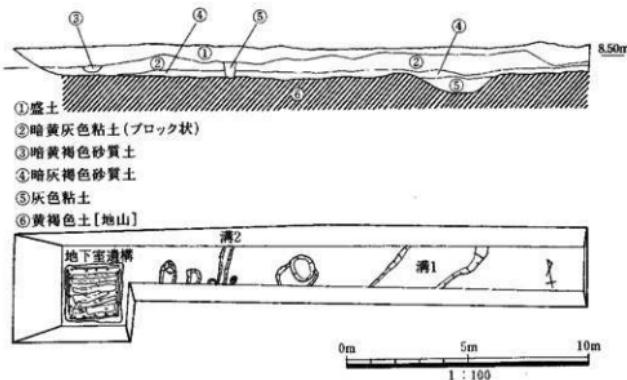


図34 高槻城跡（2001-5）遺構平面図・土層図

## 18. 高櫻城跡（2001-6 地区）の調査

調査地は高櫻市野見町 1234-4 番地にあたり、小字は「条路山」と称する。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。

今回の調査地は高櫻城の出丸跡にあたるが、調査地周辺での調査例は少なく、具体的な出丸の状況についてはあきらかでない。

調査は重機で盛土等を除去した後、人力で掘削・精査をおこなった。層序は盛土（0.5 m）、黄灰褐色土（0.2 m）、青灰色粘土である。青灰色粘土は堀の埋め土とみられるが、明確な遺構・遺物は認められなかった。  
（木曾）



図36 高櫻城跡（2001-6）調査位置図

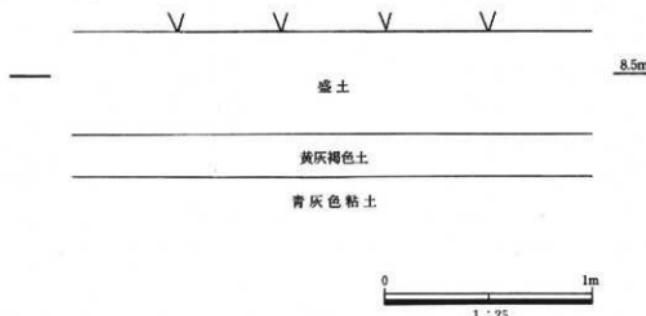


図37 高櫻城跡（2001-6）土層模式図

## VIII. 今城塚古墳規模確認調査（第5次）

今城塚古墳は、6世紀前半に築造された二重の濠を有する前方後円墳であり、昭和33年2月に史跡指定を受けている。

平成9年度からは同古墳の保存整備に必要な古墳各部のデータを得るために、規模確認調査を実施している。この調査は墳丘の遺存状況や内濠の幅・深さ等の形態把握と墳丘・内堤それぞれ基礎部分のそして内外濠埋土の観察・状況把握をおもな目的としている。これまでに実施した第1次～第4次調査により、古墳の規模や形状に関するデータを得るとともに、戦国時代の城砦による改変や前方部における1596(文禄5)年の伏見地震によるとみられる大規模な地滑りによる形態の変化が確認された。

今回の調査は、平成13年度国庫補助事業（総額20,000,000円）として実施した今城塚古墳の第5次規模確認調査であり、墳丘北側の内堤や外濠の形態や遺存状況を把握するため、前方部北側の内堤張り出し部から外濠にかけて調査区を設定した。

### 調査の結果

内堤は外濠部地山面からの高さ3m、上面幅23mをはかる。調査区の周辺部の幅は約18mをはかり、北辺の一部が北へ張り出すことが判明した。ここでは円筒埴輪列や多数の形象埴輪などが出土した。

円筒埴輪列は内堤の南北で各一列検出した。内堤に平行して南北に並び、両者の間隔は14.7mをはかる。すべて円筒埴輪によって構成され、基底部付近のみが原位置を保つ。底部の外径は40cm前後を中心に数種類認められ、墳丘側に小ぶりのものを多用するようである。

形象埴輪群は北円筒埴輪列のさらに北側で検出した。検出範囲は東西約21m、南北約6mをはかり、さらに東西とも区域外に広がっている。北側については内堤の崩落により一部の埴輪が滑落した状況となっている。

形象埴輪には家・匂い・器財（蓋・大刀・盾・轍）・人物（武人・鷹匠・巫女・力士）・動物（馬・犬・鶏・水鳥）など83点の他、形態不明のものを含めて100点以上あり、各所に散乱した状態で出土した。基底部が遺存するものは80点を越え、一定のまとまりをもちながらそれぞれが東西もしくは南北に列をなして並ぶ状況であった。また、方向の判明したものは西もしくは北を向いていた。

家形埴輪は原位置の判明した4点のうち、3点が柱を円柱で表現していた。検出した大半は入母屋造りで、千木や堅魚木で装飾する家などもみられ、多様なものとなっている。

匂い形埴輪は南北方向に直列して壠のように並び、中央付近では門形の埴輪を挟み込んでい

た。この東西約10mでも開いた形埴輪のまとまりが確認され、両者は埴輪祭祀区の区切りを示していたことがあきらかになった。

形象埴輪のうち、大刀形は調査区東半部内側に列をなして並ぶ。多くは玉總大刀を表現しているとみられ、小形の盾が伴うようである。

人物埴輪は一定のまとまりがあり、囲い形埴輪に挟まれた調査区中央部に巫女等の女性や座像男子、西側では力士や武人、鷹匠などがみられた。

動物では鳥類が最も内側（墳丘側）に配置されており、四足獸類は外寄りの傾向がみられる。うち、2体の四足獸には指の表現がみられた。

外濠部の現状は旧耕地が北側へ張り出した形状となり、古墳の旧状をとどめているとは言い難い。外濠部を横断するトレンチでは現地表下約0.7mで黄褐色粘質土の地山を確認したもの、地表から地山直上までは旧耕作土や整地土等に被われ、外濠底部や濠内堆積土等はまったく確認できない状況であった。中央部では幅6m、地表面からの深さ約2mの大溝が東西にのびていた。整地層から掘削され、埋土には砂や礫が含まれることから一定量の水流がうかがえる。埋土からは埴輪片のほか、上層より11世紀末頃の瓦器碗が出土している。

## 小 結

今回の第5次調査では北側内堤における埴輪祭祀の状況や外濠について新たなデータを得ることができた。

内堤は現状で北側に約5m張り出しており、上面は北側に向かって下降していた。旧地表が未確認のために地形の旧状は明確でないものの、基本的には北東から南西方向に下降するゆるやかな傾斜であったとかがえられる。第4次調査では地山上に盛土をした状況が確認されたが、今回については盛土の存在は確認できたものの、厚さや具体的な状況については不明確といわざるを得ない。

外濠は明確な痕跡を確認することができなかった。土層断面の観察では、外濠堆積土などは確認できず、水田造成時に大規模な整地がおこなわれたため、もともと浅かった外濠が削平されたのかどうかは確認できなかった。

形象埴輪が分布する内堤北側は外濠側にむかって張り出しが設けられ、形象埴輪が配置された祭祀区となっていた。これらの埴輪は列状あるいは群をなしたまとまりを示しているほか、人物の方向や盾面の向きなどが古墳の外側を意識した配置になっており、一定の計画をもって配置されたことがうかがえる。また、囲い形埴輪による東西約10mをはかる小区画の存在という具体的な状況も判明しつつあり、今後の埴輪祭祀区の範囲や張り出しの形状把握について重要な知見を得ることとなった。

（宮崎）

## IX. まとめ

今年度は嶋上郡衙跡で5件、その他周辺の6遺跡で13件、合計18件の調査を実施した。

嶋上郡衙跡では近年の傾向がさらに強まり、遺跡周縁部分の小規模な調査も減少しつつあり、郡衙や寺院に直接関わるような遺構・遺物を検出するには至っていない。

郡衙東南方の48地区においては山陽道に近接する部分の調査を実施したが、遺構・遺物が希薄である状況に変化はない。郡衙の周辺では無遺構となる地域が存在することが近年確認されており、今回の調査から当該地区も同様であったことが指摘できよう。

富田台地上に展開する遺跡では中城遺跡と富田遺跡の調査を実施した。ともに弥生時代から中・近世の遺跡として知られ、一帯は中世以降の政治・経済の中心的な地域であった。しかしながら、台地上の開発が比較的早くからなされたためか、各遺跡の具体的な遺構・遺物の検出例は乏しい。このなかで中城遺跡から平成7年に出土した約6000枚の埋納鏡の時期が層位的に南北朝期に絞り込めたことは集落の消長を探るうえで重要である。同遺跡では近年、谷地形より遺物包含層や小規模ながらも遺構の存在も確認されていることから、旧地形の状況把握も視野にいれながら調査を進める必要があろう。

高櫻城跡は近年調査件数も増加する傾向にあるものの、全体的には狭小な範囲での調査にとどまっており、城郭にかかる具体的な遺構・遺物は乏しい。今年度は三ノ丸北郭において地下室状の遺構を検出しておらず、城内の生活状況をうかがううえでの有効な資料となろう。

このほか、今城塚古墳では第5次規模確認調査を実施し、はじめて埴輪祭祀区の存在を確認することができた。その具体的な内容については今後の整理作業の進展にゆだねる部分が大きいものの、これまで畿内の大规模古墳における埴輪祭祀については判然としない状況となっていたが、今回の調査によってその手掛かりを得ることができた意義は大きい。

(宮崎)

抄 錄

フリガナ	シマガミイセキグン
書名	鷺上遺跡群
副書名	
卷次	26
シリーズ名	高槻市文化財調査概要
シリーズ番号	28
編集者名	橋本久和 雄ヶ江一朗 宮崎康雄 高橋公一 木曾 広 清水良真 西村忠祥
編機関	高槻市教育委員会文化財調査センター
所在地	大阪府高槻市南平台五丁目21-1
発行年月日	2002年3月31日

フリガナ 所収遺跡名	シマガミイセキ 鷺上都衛 6-F・G地区				
フリガナ 所在地	シマガミイセキ 大阪府高槻市都家本町755-1				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 51' 05"	135° 36' 18"	20010925 ~ 20010928	9.00m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
鷺上都衛	官衛	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	シマガミイセキ 鷺上都衛 38-F地区				
フリガナ 所在地	シマガミイセキ 大阪府高槻市清福寺町918-8				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 55"	135° 36' 30"	20010903	9.00m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
鷺上都衛	官衛	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	シマガミイセキ 鷺上都衛 48-D地区				
フリガナ 所在地	シマガミイセキ 大阪府高槻市川西町一丁目954-8				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 53"	135° 36' 30"	20010528 ~ 20010529	9.00m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
鷺上都衛	官衛	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	鷺上都衛 74-1・N地区				
フリガナ 所在 地	大阪府高槻市郡家新町155-2				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 53"	135° 36' 30"	20010621 ~ 20010627	12.00m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 39					
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
鷺上都衛 官衛	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名	中城(2001-1)				
フリガナ 所在 地	大阪府高槻市北昭和町二丁目313-4				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 49' 36"	135° 35' 25"	20010620	9.00m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 47					
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
中城 集落	中世				

フリガナ 所収遺跡名	郡家今城(2001-1)				
フリガナ 所在 地	大阪府高槻市永室町一丁目769-6				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 48"	135° 35' 38"	20010822 ~ 20010824	8.00m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 17					
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
郡家今城 集落	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名	富田(2001-1)				
フリガナ 所在 地	大阪府高槻市富田町六丁目2833の一部				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 49' 35"	135° 35' 47"	20010918 ~ 20010921	9.00m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 48					
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
富田 集落	中世				

フリガナ 所収遺跡名	タケケイ 田能南(2001-1)					
フリガナ 所在 地	オカモト タケケイ ナカモトタケケイ 大阪府高槻市大字田能小字中条39-2					
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村 遺跡番号	34° 50' 31"	135° 35' 54"	20010827 ~ 20010831	9.00m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事	
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
田能南 集落	中世					

フリガナ 所収遺跡名	タケケイ 宮之川原(2001-1)					
フリガナ 所在 地	オカモト タケケイ ナカモトタケケイ 大阪府高槻市宮之川原五丁目512-2					
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村 遺跡番号	34° 50' 30"	135° 35' 54"	20010628	9.00m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事	
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
宮之川原 集落	古墳					

フリガナ 所収遺跡名	タケケイ 宮之川原(2001-2)					
フリガナ 所在 地	オカモト タケケイ ナカモトタケケイ 大阪府高槻市宮之川原五丁目509-2					
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村 遺跡番号	34° 50' 34"	135° 35' 54"	20010801 ~ 20010803	9.00m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事	
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
宮之川原 集落	古墳					

フリガナ 所収遺跡名	タケケイ 宮之川原(2001-3)					
フリガナ 所在 地	オカモト タケケイ ナカモトタケケイ 大阪府高槻市宮之川原五丁目505-56					
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村 遺跡番号	34° 50' 34"	135° 35' 54"	20011122 ~ 20011130	9.00m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事	
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
宮之川原 集落	古墳					

フリガナ 所収遺跡名	高槻城 (2001-1)				
フリガナ 所在 地	大阪府高槻市城内町1001-3				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 26"	135° 37' 17"	20010621	9.00m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 85					
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
高槻城 城跡	中世・近世				

フリガナ 所収遺跡名	高槻城 (2001-2)				
フリガナ 所在 地	大阪府高槻市野見町992-18の一部				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 52' 26"	135° 37' 41"	20010629	9.00m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 85					
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
高槻城 城跡	中世・近世				

フリガナ 所収遺跡名	高槻城 (2001-3)				
フリガナ 所在 地	大阪府高槻市野見町443-16				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 51' 42"	135° 39' 08"	20010806 ~ 20010810	9.00m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 85					
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
高槻城 城跡	中世・近世				

フリガナ 所収遺跡名	高槻城 (2001-4)				
フリガナ 所在 地	大阪府高槻市八幡町1056他				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 42"	135° 37' 38"	20010816 ~ 20010820	9.00m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 85					
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
高槻城 城跡	中世・近世				

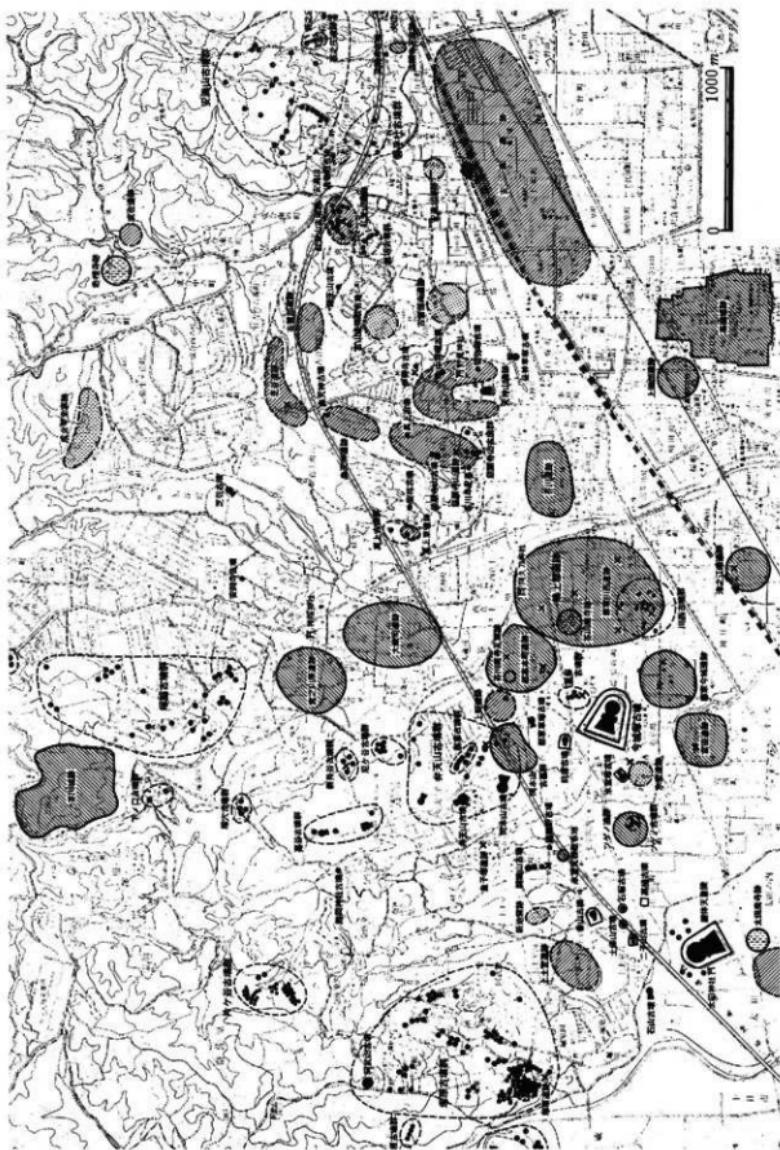
フリガナ 所収遺跡名	高槻城（2001-5）					
フリガナ 所 在 地	大阪府高槻市野見町1500-1					
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村 遺跡番号	34° 50' 34"	135° 37' 28"	20010904 ~ 20010917	66.00m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事	
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
高槻城 城跡	中世・近世					

フリガナ 所収遺跡名	高槻城（2001-6）					
フリガナ 所 在 地	大阪府高槻市野見町1234-4					
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村 遺跡番号	34° 50' 28"	135° 37' 19"	20011029 ~ 20011102	6.00m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事	
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
高槻城 城跡	中世・近世					

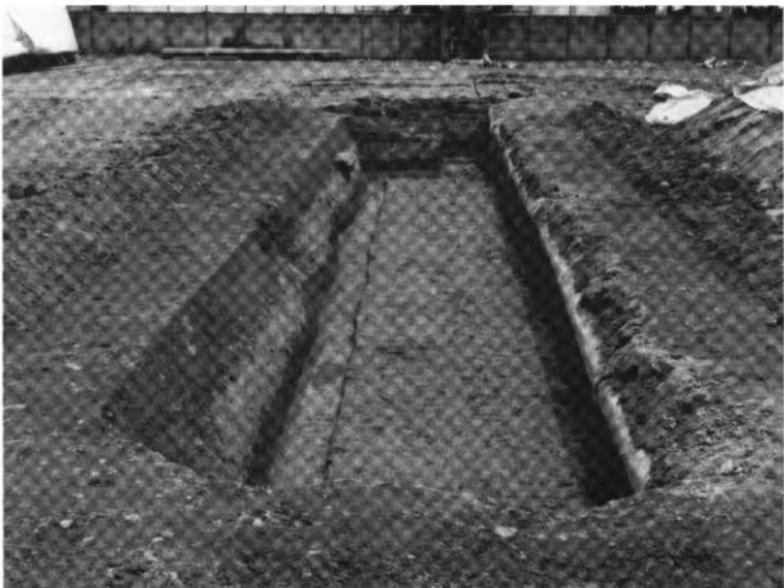


# 図 版





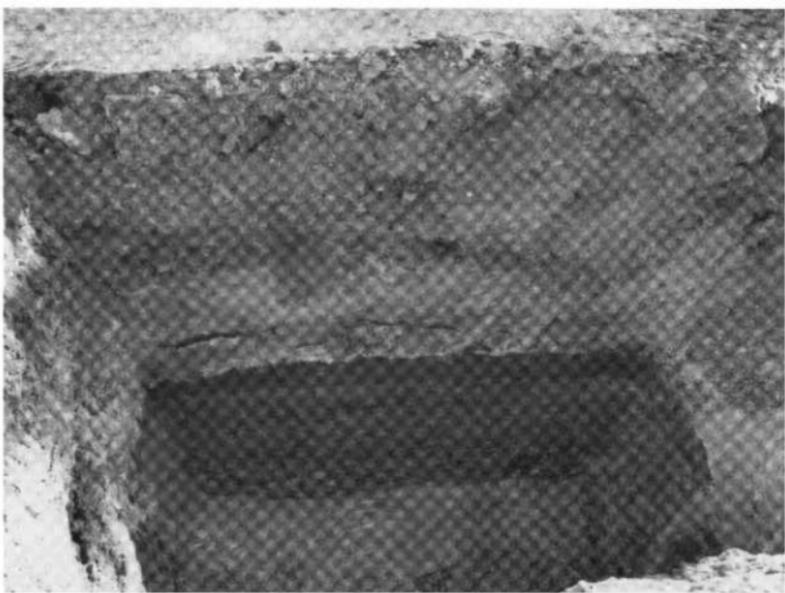
鳴上郡街跡とその周辺



a. 岐上郡衙跡（74-J・N地区） A区全景（西側から）



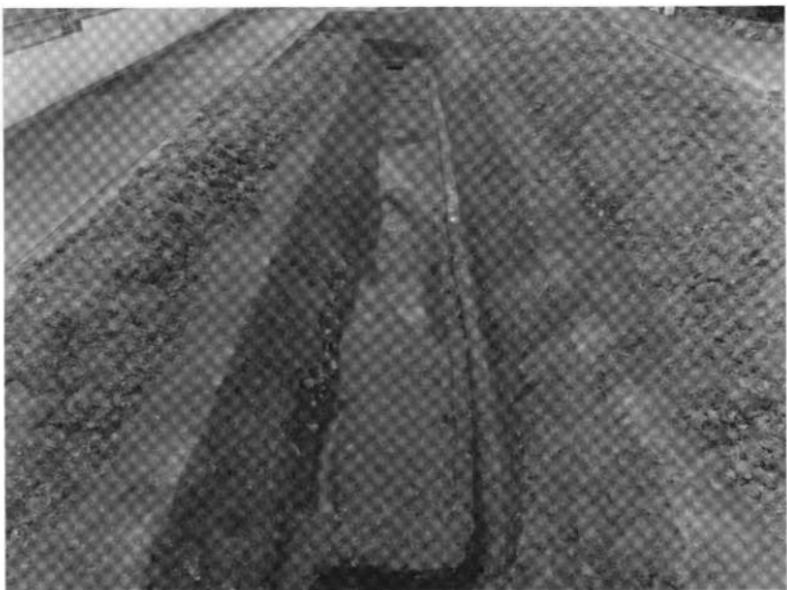
b. 岐上郡衙跡（74-J・N地区） B区全景（西側から）



a. 宮之川原遺跡（2001-3地区）全貌



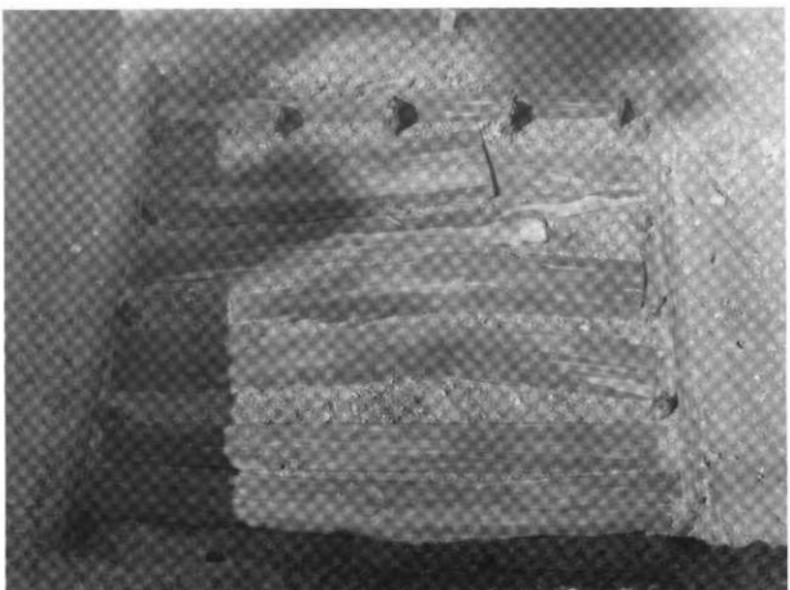
b. 高槻城跡（2001-2地区）全貌



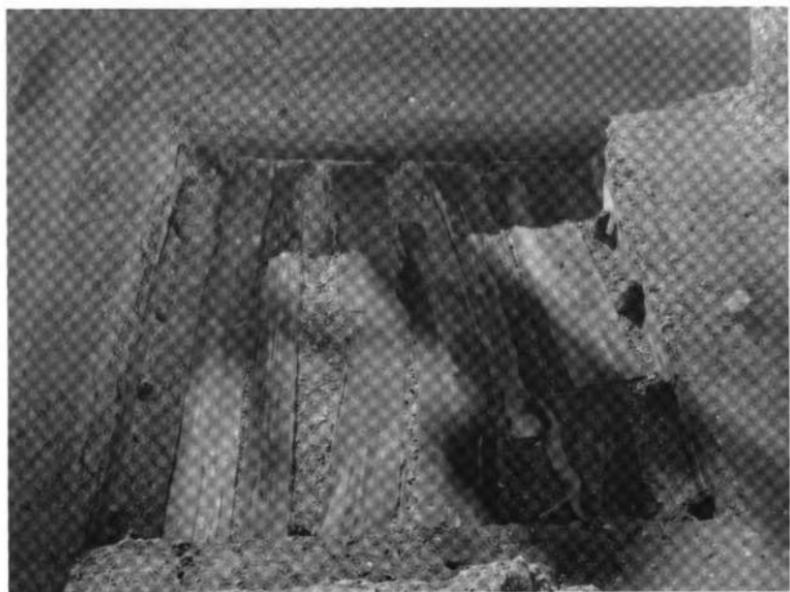
a. 高槻城跡（2001-5地区） 調査区全景（東側から）



b. 高槻城跡（2001-5地区） 調査区全景（西側から）



a. 高槻城跡（2001-5地区） 調査区 地下室遺構（南側から）



b. 高槻城跡（2001-5地区） 調査区 地下室遺構（西側から）



a. 今城塚古墳 内堤全景（北西側から）



b. 今城塚古墳 形象埴輪検出状況（東側から）

高槻市文化財調査概要 XXVII

鷺上遺跡群 26

平成 14 年 3 月 31 日

発 行 高 槻 市 教 育 委 員 会

文化財課 埋蔵文化財調査センター

高槻市南平台五丁目 21 番 1 号

印 刷 株式会社 邦 文 社

大阪市東淀川区大柄 1 丁目 4 番 9 号